

年度	平成16～18年度
----	-----------

基本目的 4 多くの人が働ける場が増える

行動目標 4-2 農水産業が活性化する

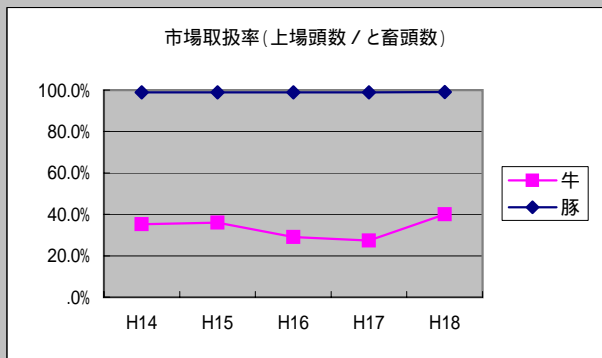
(所管課名 商工農水部 農水事業課
食肉センター・食肉地方卸売市場)

任務 市場取扱量を安定させる

任務の成果・活動指標の推移

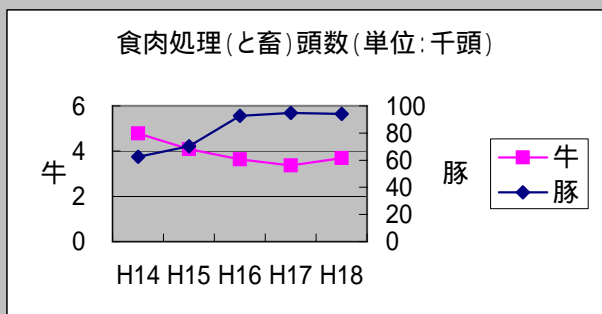
市場取扱率(上場頭数/と畜頭数)

	牛	豚
H14実績	35.2%	98.9%
H15実績	36.0%	98.9%
H16実績	29.1%	98.9%
H17実績	27.3%	98.9%
H18目標	40.0%	99.0%



食肉処理(と畜)頭数

	牛	豚
H14実績	4,788頭	62,480頭
H15実績	4,095頭	70,215頭
H16実績	3,641頭	92,714頭
H17実績	3,363頭	94,921頭
H18目標	3,700頭	94,000頭



指標の説明

当施設で食肉処理(と畜)される家畜の内、市場取引に回る割合を市場取扱率として指標としたが、全体の食肉処理頭数増減を示す数値も参考に上げた。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

安全性の確保された衛生的かつ効率的な施設実現に向けて、施設・設備の維持管理及び整備を実施するとともに、卸売会社を通して、三重県とともに、集荷・販売等の対策事業を実施して市場運営の健全化を図ってきた。

豚については、これまでの集出荷対策の成果が出て、6～7万頭台で推移してきた食肉処理頭数が、平成16年度92,714頭、平成17年度94,921頭と9万頭台に増加した。

一方、牛については、国内の飼養頭数の減少等もあったが、当施設への上場用の搬入が減少し、食肉処理頭数も平成16年度3,641頭、平成17年度3,363頭と減少した。

取引単価(kgあたり)については、豚で平成15年度396円、平成16年度433円、平成17年度450円、牛では、それぞれ、1,778円、2,006円、2,051円で上向きに推移した。当市場の総取引高も、平成15年度3,140百万円、平成16年度3,840百万円、平成17年度3,951百万円と上向きに推移した。

以上の結果、当施設への牛の上場用搬入は減少したものの、豚の増頭が大きかったため、全体として、これまでの取組が効果的であったと判断される。

平成18年度

平成18年度は、左表のとりの市場取扱率を目標に掲げたが、減頭した上場用牛の増頭と増加した豚の頭数確保に努める。

適切な施設維持管理を実施し、これまでと同様に安全性の確保された衛生的かつ効率的な施設の実現を目指す。

老朽化しているセリ設備システムの更新や豚部分肉カット室設置等の施設整備を実施して、衛生的でより安全な食肉供給を目指す。

集・出荷対策事業を卸売会社を通じて三重県とともに実施して、市場運営の健全化を図る。

これからの課題、施策等展開の方向性

地域住民(国民)への安全で安心な食肉の安定供給が当施設の目的であるが、そのために施設・設備の適正な維持管理や整備に努めてとともに、有効な集・出荷対策等の実施に努める。